

人は心 こころはあい 愛は人

社会福祉法人 放泉会 理事長 瓜坂 尚之

異常気象が続く近年、立秋を過ぎ、白露を迎えても尚、酷暑はとどまることなく、秋分を経て寒露を迎える頃、やつと朝夕の涼しさを感じる次第です。二十四節気どおりにかないのが常となってしまうのでしょうか。

新型コロナウイルス感染症も五類に引き下げられ、人々の生活もコロナ前の日常を取り戻しつつあります。これまで、コロナ禍にあって人と人とのふれあいが、ことごとく隔絶された生活を余儀なくされてきました。

そんな中で、人が触れあわずに生活を進めていけるよう新たに導入されたもの：テレワーク、オンライン研修（会議）からスーパーのセルフレジ等々に至るまで多岐に亘っています。今後それらはスタンダードなものとなっていくのでしょうか。感染予防と同時に、必要以上に人と触れ合う煩わしさは、減るかもしれません。が、どこか心寂しさを感じます。

学校では、AI授業が導入され、高度な分析結果を基に個々に合った教育がなされるようです。またこの先、ロボットや機械が私たちの職業の半数近くを担うことが出来るようになるのではないかと言われています。機械は、私たちの生活には欠かすことができないツールです。今の時代、切っても切り離せない存在となっています。

時に、人と人との関りは、さまざまな摩擦によつて心が疲れてしまうこともあるでしょう。そのストレスから解放されるためには、まず「自分の意見をはっきり伝える」という事がメンタルヘルスの観点からは、大切であるとされています。人間同士の関係でしたらそれも可能かもしれません。意思を伝え、理解しあうことは、確かに大切な事です。一方で、私たちは人の心を「推し測る」という文化を持っています。人を慈しみ、人の心を察することのできる力を持つのは人間です。人をお相手とする私たちの仕事では、後者が優先されるべきではないかと思うのです。

AIの技術がこの先どこまで進化するか、全く想像もできませんが、人の心を推し測ることが出来るのは、これから先もAIや

ロボット、機械ではない。それが出来るのが人であると信じています。

将来的には、今よりもっと、介護ロボット等の助けを借りて介護を行う必要が出てくるかもしれません。そんな今だからこそ、「人は心 こころはあい 愛は人」の法人理念の原点を慮り、自らを静かに省みることが必要であると思うのです。

大森町の石見銀山を題材にした、千早 茜氏の直木賞受賞作品「しろがねの葉」。その文中では、銀堀の男たちを、「齢三十にして、無病の者となし」と表現しています。

彼らは、長く生きられない運命を当然のこととして受け入れながら、銀堀として働き家族を養う事を誇りとしていました。また、彼らを支える女たちも共に運命を受け入れる潔い生き様が描かれています。彼らには、その厳しい生活の中にも「幸せ」を見出す強さがあります。

「幸せとは何ぞや...」

当然のことながら、人の幸せの形はそれぞれ違います。目まぐるしく変化する生活、忙しい毎日の中で、ともしればそこにある、確かな幸せも見逃してしまいがちです。しかし、どのような状況に置かれても、幸せの種類というものが存在すると信じています。置かれた環境や立場は様々でも、それに気づく事が「幸せ」ということなのかもしれない、と思わされたのでした。

そして、時代や生きる環境が違えども、私たちが命を預かる職業人としての強さと、逞しさを備えていたいと思うのです。

新型コロナウイルス感染症が五類に引き下げられたとはいえ、ウイルスの脅威は変わりません。今後も感染予防に尽力する日々は続きます。ご利用者様の健やかな生活の為に心を尽くす。心とこころの介護をより一層求め続けて参ります。

今日までのご厚情に感謝いたしますとともに、今後ともご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

「さわらび苑跡地緑化計画」

昭和六十年に開設された、さわらび苑を、令和二年に長久の地へサンシルバーさわらびとして、移転新築致しました。それに伴い、三十六年間走り続けたさわらび苑舎も解体することとなりました。手狭に感じていたはずなのに、解体した跡地はかなり広大です。

整地された跡地を歩きながら、「ここは、〇〇さんのお部屋だったな」と、この地で過ごされていた時の様子が思い浮びます。また、「ここは、事務室」「ここは、浴室、厨房」「デイサービスは、この辺り...」と寂しさを感じつつも、歴史とともに、数えきれない思い出があるものだと、当時の感慨に耽っていたものです。

当法人は、三瓶町池田に生まれ、この地に育てていただきました。そして、この地にさわらび苑が息づいていた証を残すべく、自然との調和を念頭に、そこに芝生を植え、地域の皆様にも、多目的に活用していただくように計画をいたしました。

解体直後は、一面茶色の土地で、なかなか根を張らず、果たして芝生は根付くのか？と心配したこともありましたが、三年の歳月を経て、燦燦と降り注ぐ日差しと、澄んだ空気の恩恵を受け、今では、ゴルフ場さながら、芝も青々と立派に成長しました。

この芝生が、皆様の賑やかな笑い声に包まれる、憩いの場となりますことを、切に願っています。

さわらび苑から始まった、三瓶町池田の放泉会は、長久の地で更なる飛躍に向け走り出しています。今後とも、ご支援の程宜しくお願い致します。

余談ですが...

お陰様で私の趣味に、新しく「芝刈り」がプラスされました。休日には「山へ芝刈り」ならぬ、「跡地へ芝刈り」に奮闘しています。そして只今、芝刈りボランティアをして下さる方、絶賛募集中です！澄んだ空気の中で、自然と戯れてみませんか？（笑）



車椅子を寄贈頂きました。

この度、(一財)中国地方郵便局長協会様より当法人へ車椅子を3台寄贈頂きました。

地域貢献の一環として長年にわたり、車椅子の寄贈先の公募を社会福祉法人に行われているとのこと。この度当法人も応募させていただきましたところ、寄贈頂けることとなりました。

9月25日に行われた寄贈式では、車椅子の除幕式をご利用者の方と共に行いました。ご利用者様も大変喜んでいらっしゃいました。末永く大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

人は心



外出支援

サンシルバーでは、ご本人・ご家族の希望に合わせて外出支援を行っています。

『新しく出来た高速道路を通ってパン屋に行ってみたい』や『自宅に帰ってみたい』、『喫茶店に行ってみたい』などなど。御家族の協力を得ながら実施する事が出来ました。



その際の入居者様は、願いが叶い充実した時間を過ごすことが出来た満足感と、達成感に満ちたとても良い表情をしておられました。

ドライブや買い物、外食、懐かしいご自宅への帰宅やお墓参り等々、今後も出来る限りご希望に添った外出支援を行いたいと思います。



食を楽しむ

箱寿司・へかやき・三瓶そば、これらは大田市の郷土料理です。全国各地にこのような郷土料理があります。その土地々々で愛され昔から伝わる食べ物をただ食べるだけではなく、楽しんで食べて頂くにはと考え、月1～2回の“郷土料理の日”を設けています。3年前くらいから取り組み、提供する数日前からお知らせを貼り出すと眺めながら楽しみに待っていて下さいます。そして、提供後も「これ美味しかったが～」と話題になるのが何より嬉しいひとときです。



また季節ごとに普段召し上がられる膳ではなく、目でも楽しんで頂きたいと【お弁当シリーズ】を始めました。これは松花堂弁当の時に、ご利用者の方々がいつもとは違うお膳でとても喜んで頂いていることから発想し、コロナ禍でもあった為、外出もままならない時期に〇〇した気分(お花見した～稲刈りした～気分)になって想像し違う楽しみを感じて頂こうと考え今では季節のお楽しみ食として定番化しています。

毎日同じ景色で同じメンバーで何か楽しみを得るには、やはり毎日の食事は生活する上で欠かせない楽しみのひとつではないでしょうか。体調によっては制限がある方もおられたりします。その中でも食を楽しむ少しでも潤いある生活のお手伝いが出来たらと願っています。

また折しも今年の2月に国民宿舎さんべ荘で行われた「王将戦」では藤井王将と羽生九段が“大あなご重”“三瓶そば”“三瓶そばまんじゅう”...などなどを召し上がられ、大田市の身近な“食”が目目された機会となりました。

これを機にまた食べてみるのもいいですね。

グループホーム

Aさん 「そろそろ紫蘇の実が出来ちよらんだろうか？」

Bさん 「出来ちよるかもしれんねえ～」
職員 「見に行きますか～？」

ということで裏の畑まで紫蘇の実を取りに出かけました。

Aさん 「あら～いいあんばいにあるかね～」

Bさん 「味噌など作るかね～ご飯にまぶしたらマイ(美味い)が～」

Cさん 「紫蘇のいい匂い♪」

Bさん 「天ぷらもいーだない？きのこやち(等)も入れて～」

Dさん 「あんた、食べることばかりだな(笑)」

三瓶の麓の畑では賑やかな笑い声が響き、今日も秋の彩りが食卓を飾ります。



逆上がりできたよ!

サンチャイルドではスポーツチャレンジ活動を年中・年長組を対象に行っています。今回は逆上がりと飛び箱にチャレンジ!指導の先生と始まる前のお約束(先生がお話している時は“お口チャック”“さんかく座り”)をして始めます。

逆上がりや飛び箱の前に準備運動も欠かせません。パタパタ音をさせずに歩いたり走ったり、片足上げてバランスも上手にとります。足を広げて飛び箱の練習も...どれも大切な動作です。

余裕で出来る子・ちょっと難しい子、様々なレベルに合わせて指導され、どのようにしたら出来るようになるのか、どうスポーツを楽しむのか、またスポーツだけではなく活動を通して皆と一緒にルールを守りながら楽しく行うこともしっかり指導頂き、一人ひとりが出来る喜びを感じながら学ぶことが出来ました。今後も子どもたちがスポーツを楽しみ、好きになれるよう、この活動を通して支援していけたらと願っています。



夏だ!祭だ!天領さん!

夏本番の8月5日夕方から、地元のお祭り「天領さん」の天領踊りに保護者会主催で参加しました。

さんさん組・きらきら組の園児・保護者さん・職員で総勢80名のチームが熱い祭りの輪に加わり、盛大に天領踊りを楽しみました。

家族や友だちと皆で汗を流して踊った天領踊りは、きっと夏の夜の素敵な最高の思い出として、いつまでも皆の心に残ることでしょう。



“はあ～大田天領さんは～ふるさと祭り、ヨイヨイヨイッ～!”

長寿を祝う会

「まあありがたいことで…」と手を合わせ、お礼を言われたのは川島様。その年に百歳を迎えられる方に、内閣総理大臣及び大田市長よりお祝いが贈られます。当法人では3名の方が百歳を迎えられ、9月19日に長寿を祝う会を行った席で受け取られました。コロナが5類に移行して初めての長寿を祝う会でしたが、人生に一度しかないこの素晴らしい瞬間を共に過ごして頂きたく、該当のご家族にのみ声をおかけし、ご臨席頂きました。これまでの人生を振り返られ涙されるご本人や、それを温かく見守られるご家族に、胸が熱くなるひとときでした。

さて第二部では、すっかり恒例となりました「SSB」の登場です。おなじみの曲はもちろん、利用者やご家族に指揮をしていただく指揮者コーナーで盛り上がり、SSBの演奏をバックにサンチャイルドの伊藤園長の素晴らしい歌声で会場のボルテージは最高潮！そして指揮者の瓜坂理事長より「次の曲は宇宙戦艦ヤマトです」と紹介のあと、演奏が始まった途端クルッと客席を振り向いた理事長。すると「♪さらば～地球よ～♪」とサプライズ独唱！！ささきいさお（歌手）が、そこに居るかと思うくらいの低い渋い声で歌い上げたのには、職員も驚き、会場の外に居た職員も思わず覗きにくるほど…。また理事長の生歌に触発された利用者Mさんが、飛び入りで「ワシも歌いたい！」と生バンドをバックに「北酒場♪」を大熱唱で気持ちよく歌い上げられ、大いに盛り上がった長寿を祝う会「まだ聞きたい～」と後ろ髪引かれる中、幕を閉じました。

お楽しみの後は、いつもとは違ったお食事タイム。祝膳の松花堂弁当は、調理スタッフ手作りのもの。「こりゃあ、ごっつお（御馳走）だわ～」と乾杯もそこそこにペロリと完食して下さる方がほとんど。普段とは違う雰囲気でも食欲も増し、喜んで頂けることが、何より嬉しいことでした。

この日は、式典と余興が終わったあと、お食事のため会場の準備をする間に、神楽が得意なスタッフが“恵比寿舞”を披露。軽快な神楽のお囃子に合わせ、鯛を釣る仕草や独特な神楽の舞を見ることが出来、利用者の方も大変喜んでおられました。ただ場繋ぎだった為、面と小道具のみの装いで、あとはユニフォーム姿だったのですが、そこはご愛嬌で。

老人ホームにとって一大イベントの長寿を祝う会ですが、何より利用者の皆様に喜んで頂くことが一番です。共に長寿をお祝い出来たことを嬉しく思い、これからも快適にお過ごし頂けるように御支援していきたいと思うスタッフ一同でした。



愛は人
こころはあい

誕生カード

ゆうイングの誕生カード前号からの続編です。つまみ細工を無事に作り上げたR3年度でしたが、R4年度も手作り誕生カードに挑戦しました！お次は切り絵で四季を感じて頂こうと取り組みました。細かなところもデザインナイフで切り抜き…切りすぎたところは修正しつつ作り上げました。さてR5年度は花おりがみです。折り紙と言えば簡単そうですが、折り方が難しかったり、紙の質によってはとても慎重に折る部分もあり大人の折り紙もなかなか高度だなと思いつつ現在も進行中です。年に一度のお誕生日を迎えられるご利用者にほんのわずかですがお祝いしたいという気持ちでカード制作に取り組んでいます！



ゆうイングの夏祭り

夏祭りと言えば、夏の風物詩。ゆうイングでは、毎年夏祭りを企画しています。

天領踊りや、スクリーンに映し出される打ち上げ花火、そして何より今年の目玉は、綿あめです。厨房職員によるお手製で、色とりどりのザラメを用意しました。

くるくる回して大きくなった綿あめを、お祭りらしいカップに入れて、デザートとして食事と共にお出ししたのですが、直ぐに綿あめに手が伸びて…。食べておられる姿はホントに嬉しそうで「美味しい～」と最高のニコニコ笑顔です。

さて、次は何を作しましょうか？



Go! Go! パワー!!

デイサービスセンターゆうイングでは、日々の活動の中、運動にも力を入れています。パワーリハビリの機器を使いながらご利用者様、それぞれに合った運動を行っていただいています。

この運動により、日ごろ使われていない筋肉や関節等の動きを感じながら、適度に体を動かし、これからも健康に過ごせるよう、皆さん真剣に取り組んでいらっやいます。

ご自分の体と相談しながら負荷を少しずつ調整するなど、機器の扱いも慣れたもの！担当者やお仲間と和気藹藹お話ししながらの体力づくりで自然とやる気もわいてきます。また、運動された後の皆様のスッキリした笑顔は最高です。

ぜひ皆様も一度試してみませんか？体力の向上、活発な日常生活が過ごせるようにお手伝いさせていただきます。



ある日のワンショット

子どもたちを前に
オンステージ♪



芸術の秋・・・

三瓶山と秋の味覚

～俳句で趣きを添えて～

デイサービスご利用者様渾身の一作
この秋の壁面装飾作品です



エサようけ（沢山）
食べえよ！

介護の相談お気軽に！

昨年6月に居宅介護支援センターさわらび（居宅さわらび）は長久町から、さわらび苑発祥の地である三瓶町池田の『ふれあいホーム』へと事務所を移しました。この建物は、数年前まで、デイサービスセンターさんべとして使用していた古民家（写真家 藤井保氏 生家）です。

周囲には、旧池田小学校や、大銀杏で有名な浄善寺様がすくそばにあり、自然豊かで、鳥のさえずり、川のせせらぎと様々な心地よい音が聞こえてきます。

窓を開け、その音を聞きながらデスクワークをすれば、集中力も高まるのか？高まらないのか？時には、昼間から、野生動物（鹿・猿・イノシシ親子）に遭遇することもあるんです！！

現在居宅さわらびには、3名のケアマネージャーが勤務しており、ご利用者様の相談や在宅サービスの調整等、三瓶町・大田町はもとより、東は波根・朝山・富山方面、西は五十猛・仁摩方面と大田市内を訪問しています。

また、法人の地域貢献の一環である、ふれあいサロンを毎月第2・4火曜日に開き、池田地区の高齢者の方に開放しています。法人の代表として、居宅さわらびの職員と、利用して下さる方々が、日頃の生活で困ったことや、「認知症」について等々真剣にお話ししたり、癒しの場になればと取り組んでいます。

介護・福祉のお困りごとがございましたら、いつでも気軽に居宅さわらびへお声をかけて下さい。我々ケアマネージャーがお話をうかがいます。

*ケアマネージャー在所時には、さわらび苑のぼり旗を立てています。目印にお越し下さい。不在時は、電話 83-9006 へご連絡下さい。



地域貢献

三瓶山「浮布広場」では、池田まちづくり推進協議会様の主催で春と秋の年2回、草刈等の環境整備が行われます。

9月のある日曜日、当法人の発祥の地、三瓶町池田への地域貢献として、職員数名が参加いたしました。冒頭、連合自治会長様の挨拶のとおりに、今年の夏は好天続きと、適度な雨で広場は草に覆われていました。

草刈り機のエンジン音が響くなか、秋風に吹かれながらの作業は心地よく、奇麗に草が刈られた広場は、すっきりさっぱり。

池の向こうに見える三瓶山も悠然と誇らしげに、観光客の来訪を待っているようでした。



法人サービスデー

学童クラブでは、夏休み期間中に忙しい親御さんへの負担を軽減する目的として、夏休みの最終週の日1日だけですが、「法人サービスデー」と称し、お弁当と汁物を提供します。

この取り組みは、数年前より続いていて、中でも、「スイカ割り」は、サービスデーの名物になりつつあります。本物は勿体ないので（SDGs!!）、ボールをスイカに見立て本物さながらのスイカ割り大会が行われます。

タオルで目隠しして友だちの誘導に耳を傾け、狙いを定めるのですが、中には反対側に誘導されたり…。今年も見事に割れた？スイカはお食事と共に美味しく頂きました。



令和4年度 会計報告

資金収支計算書

(自)令和4年4月1日 (至)令和5年3月31日 (単位:円)

勘定科目	決算
介護保険事業収入	787,751,608
児童福祉事業収入	13,615,512
保育事業収入	149,518,073
その他の事業収入	220,000
借入金利息補助金収入	0
経常経費寄附金収入	800,000
受取利息配当金収入	837,640
その他の収入	2,187,353
事業活動収入計(1)	954,930,186
人件費支出	707,518,522
事業費支出	124,888,593
事務費支出	26,139,789
利用者負担軽減額	650,123
支払利息支出	1,614,960
流動資産評価損等による資金減少額	0
事業活動支出計(2)	860,811,987
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	94,118,199
施設整備等補助金収入	0
設備資金借入金収入	0
その他の施設整備等による収入	354,960
施設整備等収入計(4)	354,960
設備資金借入金元金償還支出	15,000,000
固定資産取得支出	142,748,140
その他の施設整備等による支出	2,876,741
施設整備等支出計(5)	160,624,881
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△160,269,921
積立資産取崩収入	111,000,000
その他の活動による収入計	75,372
その他の活動による収入計(7)	111,075,372
積立資産支出	45,000,000
その他の活動による支出	△1
その他の活動支出計(8)	44,999,999
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	66,075,373
予備費支出(10)	0
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	△76,349
前期未支払資金残高(12)	336,399,582
当期末未支払資金残高(11)+(12)	336,323,233

事業活動計算書

(自)令和4年4月1日 (至)令和5年3月31日 (単位:円)

勘定科目	決算
介護保険事業収益	787,751,608
児童福祉事業収益	13,615,512
保育事業収益	149,518,073
その他の事業収益	220,000
経常経費寄附金収益	800,000
サービス活動収益計(1)	951,905,193
人件費	718,750,522
事業費	124,888,593
事務費	26,139,789
利用者負担軽減額	650,123
減価償却費	113,431,651
国庫補助金等特別積立金取崩額	△19,856,868
徴収不能額	0
サービス活動費用計(2)	964,003,810
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	-12,098,617
借入金利息補助金収益	0
受取利息配当金収益	837,640
その他のサービス活動外収益	2,187,353
サービス活動外収益計(4)	3,024,993
支払利息	1,614,960
サービス活動外費用計(5)	1,614,960
サービス活動増減差額(6)=(4)-(5)	1,410,033
経常増減差額(7)=(3)+(6)	-10,688,584
施設整備等補助金収益	0
その他の特別収益	75,372
特別収益計(8)	75,372
固定資産売却損・処分損	14
国庫補助金等特別積立金取崩額(除)	0
国庫補助金等特別積立金積立額	0
その他の特別損失	△1
特別費用計(9)	13
特別増減差額(10)=(8)-(9)	75,359
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	△10,613,225
前期繰越活動増減差額(12)	1,701,587,600
当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	1,690,974,375
基本金取崩額(14)	0
その他の積立金取崩額(15)	111,000,000
その他の積立金積立額(16)	45,000,000
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	1,756,974,375

災害ボランティアに参加して

近年、あちらこちらで豪雨被害が起きています。大田市内でも7月上旬に「避難指示」が広い範囲に出され、各地で被害が発生しました。大田市社会福祉協議会は災害に遭っている人々を支援する目的で災害ボランティアセンターを立ち上げ、その活動に私も参加しました。

5時間程度でしたが地元に住んでいる者として、とても意義のある活動でした。あるお宅では裏山が崩れ土砂が流れ込みかけており、私たちは土砂の撤去作業を行いました。昼間の気温は34度まで上昇していたとのこと…どうりで汗が止まりません。休憩を入れながらの作業も、疲れているはずなのに疲れはあまり感じません。気持ちの良い活動でした。

私のいたグループは6人。市内からは私一人、他は市外や県外からの人で遠くは神奈川県から来てくれました。初めて会った人たちでしたが思いはひとつ。何をしたらよいか直ぐに連携はとれました。

社会福祉協議会の人に聞くとハザードマップに記されていないお宅からのボランティア要請が多かったとの事。この度の活動は目から鱗の体験で、いつ我が身に降りかかるかわからない災害は他人ごとではなく、皆で乗り切らなければうまくいきません。“助けてあげる”ではなく“協力する”という姿勢が大切だと感じ、本当に参加して良かったと思いました。そして体力の許す限り再び参加しようと思います。いつでもどのような災害が発生するかの予測不能な事態だからこそ、いま我々はひとつに繋がる時を共有することが大切だと感じました。

(Y・K)



編集委員のつばやき

雨上がりのある日、ゆうイングの東にとっても大きな虹がかかりました。

しかも、なんとダブルレインボー!!

(写真ではわかりにくいかも…)

ダブルレインボーは幸運のサインともいわれています。コロナ禍で皆何となく立ち止まっていた気持ちが、

ようやく動き出そうとしています。晴れた日ばかりでは、綺麗な虹を見ることは出来ません。

雨が降ってこそその虹です。写真ではありませんが、皆様にお福分けです。

何ごとも“災い転じて福”としたいものです。

(編集委員：小川 景・佐竹美香)

